

(様式1)

平成30年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	地域の中で自信をもちながら、健康で心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。
(2) 現状と課題	卒業後の地域での社会自立を目指して、交流及び共同学習の充実を進める。 多岐にわたる児童生徒の障害特性に応じた指導の充実を図るため、教師の専門性の向上に努める。
(3) 重点目標	1 「分かって動ける授業づくり」の実践
	2 各学部が連携した一貫性のある「キャリア教育」の推進
	3 各障害特性に応じた研修の推進
	4 特色ある学校づくり「絵と花のある学校、子どもたちの歌声がひびき、笑顔いっぱい为学校」の推進
	5 地域社会における本校児童生徒に対する理解促進と交流及び共同学習の推進
	6 地域における特別支援教育のセンター的機能を生かした、地域への積極的な情報発信と貢献
(4) 結果の公表	学校のホームページに掲載する。

学校整理番号	特19
学 校 名	青森県立七戸養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・ 肢体 ・病弱
自己評価実施日	平成30年12月11日(火)
学校関係者評価実施日	平成31年 2月 4日(月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校評議員 5名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	「分かって動ける授業づくり」の実践	公開授業や校内研修を通して、保護者及び関係者への説明責任を果たすことのできる、具体的で妥当性のある児童生徒が分かって動ける授業づくりの取組を進める。	【小学部】 保護者面談で個別の指導計画を活用し、一人一人のニーズを確認・共通理解して指導にあたった。集団参加が難しい児童には、段階や状況に配慮しながら参加を促した。 【中学部】 校内研究は、希望する研究テーマに分かれて実施した。研究課題に応じた研修会に参加し、日々の指導に生かすことができた。 【高等部】 キャリアアップシートを使い、学級担任・作業担当者が生徒の課題を共有するとともに、生徒自身が自分の課題を意識して行動できるようにした。 【教務部】 一人一指導略案の作成と公開授業を実施する。（特別支援学級新担当教員実地研修、特別支援教育体験研修） 【研修部】 全教員を対象とした新学習指導要領の基本理念の理解及び「特別の教科 道徳」に関する校内研修会の実施。 校内研究教科指導グループによる国語、音楽の研究授業・研究協議の実施、評価基準、観点別学習状況の評価の検討。 初任者研修研究授業と全教職員を対象としたワークショップ型の研究協議の実施。	B	授業公開は大変良い取り組みだと思うので、授業作りの指針のようなものがあれば、教職員で共通理解して進めていけると思う。 参観日に授業を参観してみて、子どもに合わせて授業を行っていることが十分に伝わってくる。子ども達が積極的に取り組めるような楽しい授業を継続してほしい。	【小学部】 中学部・高等部との系統性を考え、肢体不自由Ⅲ類型について体育の設定を検討した。 【中学部】 国語、数学については、各グループの1・2学期の単元をそろえ、I C T機器の活用や視覚的に分かりやすい教材の工夫を行う。 【高等部】 観点別評価を取り入れ、生徒の実態に合わせた教材の研究や授業改善を行う。
2	各学部が連携した一貫性のある「キャリア教育」の推進	各学部位段階におけるキャリア教育の充実を図る。 各学部位段階ごとに保護者・地域等への進路情報の積極的な提供を行う。	【小学部】 低学年は経験の広がりや余暇活動へつなげること、高学年は働くことへの興味関心を育てることをねらいに校外学習を実施している。 中学部作業学習の見学や体験（第6学年）、高等部祭総練習の参観や買い物学習を通して、身近な将来に対する興味関心の育成につなげた。 【中学部】 高等部との合同学習（清掃活動）を2回実施した。進路学習として、高等部の産業現場等における実習報告会に参加する機会を設定し、高等部と連携して卒業後の意識付けを行った。 【高等部】 キャリアチャレンジ「清掃」や作業学習、生活単元学習における清掃活動の継続した取組と「技能検定」により、生徒の清掃技術、意欲・意識の向上が図られた。 産業現場等における実習では、第1学年について、七戸町内の一般事業所で4日間、福祉施設で5日間を実施した。一般事業所希望の生徒については、生徒・保護者の希望を踏まえ、それぞれの施設で実施した。 【進路指導部】 『進路だよりアシスト』を月1回程度発行して情報提供を行い、ホームページにも掲載した。 第2職員室前に福祉施設の情報提示し、夏休み前にパンフレットとして保護者に配布した。 P T A研修会で進路講話を行い、本校の進路学習の取り組みや卒業生の進路状況を伝えた。	B	外部講師を用いて高等部への清掃学習をしているが、技能検定の清掃分野で好成绩を収めたり、修得した技能を中学部生徒へ伝えたり、一貫性が見えてきているように感じる。 ライフキャリアの視点で考えると、どのような子どもでも、何らかの方法でコミュニケーションがとれるように育てて欲しい。	【進路指導部】 「喫茶サービス、作品販売」に関しては、自分達が作った作品を販売することでコミュニケーション能力が高まり、充実した活動となった。 【小学部】 中学部や高等部の学習や行事の見学・体験を継続実施し、身近な将来に対する興味関心の育成につなげる。 【中学部】 キャリア教育の視点を踏まえた授業実践を目的に、高等部との合同学習（清掃活動）を継続する。 【高等部】 特別支援学校技能検定・発表会には、1・2年生の全員参加を継続する。 「接客」や「P C」については、今後、参加の可能性や指導体制等を含め検討する。

3	各障害特性に応じた研修の推進	自閉症スペクトラム、ダウン症及び肢体不自由等に関する指導の専門性の向上を目指した研修を進める。	【研修部】 新任者研修、校内研修会の実施（計１３回）を実施した。 ア 新任者を対象とした研修を実施し、障害理解や指導法について研修した。（４月中に６回） イ 美術研修会（７月） ウ 新学習指導要領研修会の実施（８月） エ 県外研修会報告会（１１月） オ 「特別の教科 道徳」研修会（１２月） カ 自閉症スペクトラム研修会（７、１１、１月） 研究主題「多様な教育的ニーズへ対応する教育支援の在り方」 ２ヶ年計画の１年目（２月中間報告）	A	学校と福祉施設が一貫性のある指導・支援をするためにも、福祉施設にも参加を呼びかけてほしい。 校内研修、研修報告会等が積極的に行われている。今後も教員の資質向上を期待したい。	【研修部】 テーマは①肢体不自由②新学習指導要領③自閉症スペクトラム④愛着障害の４つに絞り、次年度も継続した研究を行う。
		グループウェアによる研修成果の共有と効果的な活用を進める。	【研修部】 研修案内、図書等の紹介、報告会以降（１月～３月）に参加した県外研修の報告はグループセッションの回覧板を活用するようにした。			
4	特色ある学校づくり「絵と花のある学校、子どもたちの歌声がひびき、笑顔いっぱいの学校」の推進	地域住民からたくさんの評価を受けることで、児童生徒が自信をもつようにする。	【小学部】【中学部】 小中学習発表会（１１月） 【高等部】 七養高等部祭（１０月）	A	作品展のワークショップを楽しみにしている方々も多く、評判は良い。 学校を知ってもらう機会としてはとても良い機会だと思う。このような機会を引き続き企画してほしい。 どの活動にしても、地域からの声を大事にして、評価してもらい、改善しながら地道な取組を継続してほしい。	【音楽委員会】 クリスマスコンサートには多数の教員が参加することで、子どもたちも興味をもつことができ、音楽への関心が深まるので、次年度も実施していく。 【造形委員会】 現在は中学部、高等部の作品を貸し出しているが、今後は全学部の作品を貸し出していきたい。 作品の貸し出しとの相互性を考慮して、年間４つ以上の公募展に出品する。 【PTA活動】 花壇の維持・管理は、保護者へ定期的と呼び掛けて、環境整備に努める。グラウンド方面の芝桜の維持・管理も、PTAと中学部・高等部の作業班の協力を得て行っていく。 【行事運営部】 中学部、高等部の生徒に対して、障害者スポーツ大会への参加呼び掛けを早い段階から行い、計画的に練習に取り組む。
		絵のある（作品展の開催、公募展への出品）、花のある（環境整備）、歌声がひびく（音楽活動）学校に関して、新聞等報道機関への働きかけを積極的に行い、本校のイメージアップを図る。	【音楽委員会】 ア 音楽朝会の実施（１０回） イ 音楽朝会の入場曲をダンス（恋）の曲に変更し盛り上げた。 ウ クリスマスコンサートの企画・実施（１２月） エ 小中学習発表会、七養高等部祭で楽器演奏を披露した。 【造形委員会】 ア 校内ギャラリーの整備：学部の掲示場所や校内の壁面を利用し、多くの作品を展示し、絵のある環境作りに努めた。 イ 鷹山賞児童作品展、東奥展、Art to you、中央美術展等６つの公募展に出品した。 ウ アート情報の発行：コンクール入賞作品の紹介を中心に、保護者に配布し、活動の成果を伝え、理解を深めた。 エ 本校作品展の運営：イオンモール下田で作品展の開催（来場者７８７名）、七戸高校との合同作品展（１月） オ 地域との交流：「地域に私たちの作品を届けよう」（作品の貸出し）を行っている。 【PTA活動】 芝桜プロジェクトの３年目。正門付近の花壇は次年度も継続して植付けや管理を行う。			
		各種大会に参加したり、他校等との交流を行ったりしながらスポーツ活動の充実を目指す。	【行事運営部】 青森県障害者スポーツ大会：中学部、高等部の生徒が陸上競技、ボウリング、水泳に参加した。			
		児童生徒の活動を通して、実習先及び進路先の開拓を進め、卒業後の生活の充実を図る。	【進路指導部】職場開拓：８事業所 【中学部】中学部体験実習（２・３年）：営農大学校 ３日間 【高等部】 １年：七戸町内の事業所で実施 ５日間 ２年：１学期１０日間 ２学期 ９日間 ３年：１学期１０日間 ２学期１０日間		職場開拓にも力を入れているようなので、いくつかの現場実習を体験できる機会が作れば良いと思う。 学校生活と社会に出たときの生活上のギャップがあると思うので、そのことも視野に入れて職業意識を育ててほしい。	【進路指導部】 関係機関との連携を図るために、各施設行事や障害者就労支援連絡会への職員の参加を呼び掛けた。 小学部・中学部の職員を対象に、施設見学・職場見学を実施する。高等部卒業後のイメージがもてるように計画していく。

5	地域社会における本校児童生徒に対する理解促進と交流及び共同学習の推進	学校と地域が連携・協力した奉仕活動や体験活動の充実を図る。	【中学部】 作業学習では、官庁通りの花壇整備作業を実施している。 【高等部】 作業学習では、官庁通りの環境整備作業（花壇の手入れ、草取りなど）、生活単元学習で職業訓練校、城北こども園及び七戸体育館のトイレ清掃活動を行っている。	A	小学部を中心に居住地校交流を希望する子どもが増えている。 子どもにとって、教師との出会いは大変重要なことであり、普通学校の教員も特別支援教育について、積極的に学んでいく姿勢が必要だと思う。	【小学部】 学校間交流は年2回継続して実施する。居住地校交流は、入学前の体験学習や在学中の参観日等で啓発し、継続して実施する。 【中学部】 今年度と同様に地域での環境整備作業、交流及び共同学習（学校間交流）、居住地校交流を継続していく。 【高等部】 近隣施設のトイレの清掃、学校周辺の歩道、道路等の環境整備、道の駅での作品の販売活動を継続する。
		近隣の学校との交流及び共同学習（学校間交流）を積極的に進める。	【小学部】 七戸小学校との「交流会」4～6年の児童が七戸小学校5年生と年2回（7月、10月）実施している。 【中学部】 七戸中との交流及び共同学習を実施している。リサイクル活動、作品交流、吹奏楽交流を実施した。年3回 【高等部】 七戸高校との交流は食品科学系列と福祉科健康系列の生徒を中心に、スポーツ活動や美術活動をとおして触れ合う機会を多くもつながら実施できた。年6回			
		管内市町村教育委員会及び管内小学校、中学校に居住地校交流にかかる情報発信の充実を図るとともに、居住地校交流実施の拡大に努める。	【小学部】 1年5名：おいらせ町立木内々小、十和田市立三本木小、六戸町立大曲小、七戸町立城南小、東北町立蛸沢小 2年3名：おいらせ町立百石小、三沢市立岡三沢小、野辺地町立野辺地小 3年4名：三沢市立古間木小、七戸町立七戸小、野辺地町立若葉小、おいらせ町立木ノ下小 6年1名：六ヶ所村立南小 【中学部】 1年2名：十和田市立三本木中、六ヶ所村立第二中 3年3名：三沢市立堀口中、東北町立上北中、十和田市立三本木中			
6	地域における特別支援教育のセンターの機能を生かした、地域への積極的な情報発信と充実	地区特別支援連携協議会を核として、地域の特別支援教育に関する取組を積極的に進める。	【地域支援部】 ア 上北地区特別支援連携協議会：年2回事務局校として開催。 イ 特別支援情報交流会：外部参加者50名。 ウ 巡回相談員：3名の巡回相談員が13回、要請に応じて各校を訪問。 エ 市町村教育支援委員会：上北地区で7名が委嘱を受けて参加。 オ 5歳児発達相談（東北町、三沢市）：2名（5回） カ 高等学校特別支援教育校内研修会：管内の高等学校6校7課程で研修会講師を担当。 キ 上北地区中学校・高等学校特別支援教育コーディネーター情報交換会：管内の中・高のコーディネーター17名が参加。 ク 教育相談：相談件数64件（4月～12月末）、自校における相談（43件）、訪問における相談（21件） ケ 管内の特別支援教育に関する研修会等に講師や助言者として協力。	A	弊社も障害者雇用を促進しているため、特別支援に関する職員研修を取り入れている。効率よく仕事をするためのコミュニケーションの取り方を学び、今後も受け入れる側の体制を整えていきたい。 学生の中にも発達障害等が疑われる人が在籍している。社会に出ると障害による困り感が出て、離職するケースも出ている。	【地域支援部】 必要に応じて関係機関と連携を図る。 教育相談の総件数は昨年度から19件発生している。部内で情報を共有し、関係する学部や在籍校とも連携を図っていく。 教務部の協力を得て、ホームページに情報を掲載する。
		地域に対して、ホームページなどを活用し、特別支援教育に関する積極的な情報発信を行う。	ア 市町村教育支援委員会：各教育支援委員会の第1回の会議の場で、本校の見学・体験学習等についての周知を図った。 イ 教育相談活動の啓発：教育相談、研修案内等を関係機関に送付した。ホームページにも掲載した。			

(11) 総括	今年度の学校評価は、次の下記のとおり実施した。 (1) 教職員用自己評価については、学校経営方針における重点項目6項目14観点に教職員の働き方改革に関する1項目2観点を追加した7項目16観点と、各学部・分掌等の重点事項14項目31観点について実施した。 (2) 保護者アンケートについては、昨年同様21項目で実施した。 学校評価の主旨及び実施方法については、11月の職員会議で共通理解を図り、12月中旬に自己評価、各種アンケートを実施し回収した。回答結果を受けて検討事項を明確にした上で、学部、分掌等の各部署で具体的な改善策を検討し、職員会議で共通理解した。 2月に「学校関係者評価」を学校評議員5名により実施した。4名の方から、学校の重点目標について、今年度の取り組み状況及び自己評価、保護者アンケートをもとにご意見をいただいた。今回、いただいた意見を参考にし、学校運営の充実・改善を役立てていく。
---------	---